

開催報告

あかし女性応援ねっと会員総会 ジェンダー平等推進の取り組み紹介 &異業種交流・意見交換会

会員総会

■2023年7月30日(日)

■複合型交流拠点ウィズあかし 学習室801

10:00～ 会員総会
10:30～ ジェンダー平等推進の
取り組み紹介
11:30～ 異業種交流・意見交換会

■参加者

会員総会 会場24名、オンライン 4名
イベント 会場35名、オンライン15名

総合司会



あかし女性応援ねっと
井上 恭彦

議長

あかし女性応援ねっと
代表 崎野 圭子



会員総会では、2022年度事業報告、2022年度収支決算について審議し、可決されました。

報告事項では、今年度の事業計画および収支予算、運営委員の交代、役職の変更、顧問の選任について報告がありました。

開会あいさつ

女性応援ねっとは、早いもので今年で8年目を迎えました。

様々な企業や団体、それから個人の皆様の横の繋がりを大切に、セミナーや講演会等を通じ、地域における女性活躍を推進しております。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、私どもが開催するセミナーなどは、会場開催とウェブ配信のハイブリッド形式を取り入れ、子育て中の方でも介護中の方でも、ご自宅や任意の場所からご参加いただけるように環境を整えました。本日もハイブリッド方式を取り入れており、少しでもたくさんの人に参加いただき、有意義な時間を持っていただけたら嬉しく思います。

今後も、女性も男性も生き生きと過ごせる社会の実現を目指し活動して参りますので、どうぞご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

あかし女性応援ねっと
代表 森 一美



あかし女性応援ねっと
顧問 松井 久美子

あかし女性応援ねっとの立ち上げから関わらせていただき、このたび顧問を承りました。
明石の女性がますます活躍できる場を作りたいと、微力ではございますが尽力していきたいと思っております。



明石市議会
議長 尾倉 あき子さん

地域における女性の活躍推進に寄与するため、多大なるご尽力を賜り、敬意と感謝を申し上げます。2019年に女性の活躍推進法が一部改正されまして、その支援についても大きく進められておりますので、この会がさらに発展しますよう、応援をしていきたいと思っております。

豊岡市のジェンダーギャップ解消の取り組みは全国的にも先進的で、大変重要な取組みです。これが全国に横展開に広がり、さらに女性活躍推進の場が広がるよう、国政の場から応援いたします。
本日の学びと交流を今後の活動に活かしていきたいと思っております。



参議院議員
高橋 光男 さん



取り組み紹介

男だから女だからを超えて 「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略」で 見えてきたもの

若者が帰って(入って)こない、とりわけ若い女性が帰ってこない事実に向き合い、在住する若者だけでなく、故郷を離れた若者へもヒアリングを実施した豊岡市。

選ばれるまち、帰ってくるまちになるためには、ジェンダーギャップ解消の取組みが必要だと、全国に先駆けて様々な取組みをはじめられました。

職場から
変える

豊岡市ワークイノベーション戦略(2019.1)
豊岡市役所キャリアデザインアクションプラン
(2019.1)
ワークイノベーション推進室設置(2019.4)

ワークイノベーション推進会議の参加事業所は、16から102へ。現在は134まで増えている。目指す将来の姿をはっきりと示し、経営者向け、管理職向けの意識改革等の啓発や、女性従業員向けなどのキャリア形成支援等を実施。2022年には、男性のためのキャリアプランニング講座も実施した。市独自の表彰制度を設け、市内企業の取組み事例も紹介。

まち全体へ 「豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略」(2021.3)

策定に向けては、豊岡市の未来のシナリオを描き、その実現に向けて必要なアクションを、高校生や20代など若者の声を聞くワークショップの開催など、市民参加型で進めた。地域、保育・教育者、子ども、女性など、戦略の目的達成のための手段に沿って、研修や人材育成等に取り組んでいる。過去を否定するのではなく、急激な変化に対応することを大切にしながら取組みを進めている。



豊岡市ジェンダーギャップ対策室長
上田 篤さん

異業種交流・意見交換会

事例紹介での取組みを踏まえ、明石市での課題やそれぞれの環境にある課題をグループに分かれて出しました。

様々な分野で活躍する方との意見交換により、これまで意識していなかったことを、自分ごととして捉える大切さを実感する機会となり、たくさんの気づきがうまれました。

こんな課題ができました

ジェンダー平等の意識 ジェンダーギャップ解消

- ・無意識にしていることをまずは気づく取組みやきっかけ
- ・男性と女性、両方の意識の変化
- ・男性、女性だけでなく、障害者も含めて考えないといけない

家庭

- ・家庭内での夫婦の意識の差
- ・家庭内での家事役割分担は永遠のテーマ

地域・社会

- ・自治会・地域活動でのリーダー 男女比
- ・伝統ある地域ではギャップの解消はむずかしい！
- ・自治会等へのジェンダーギャップ研修 企画・継続

職場・働き方

- ・事業所の採用人数に男女差がないが、キャリアの過程で管理職に差が生じる
- ・女性管理職を増やすためには？
- ・職場でのコミュニケーションの取り方、ハラスメント研修
- ・男性育休の取得率アップ 気づきが大切→役割分担→自然に
- ・女性職員の職務経験 男性職員の育休取得

教育

- ・保育所勤務。子どもたちの選りばはこだわらず、自分の好きなものを選べるようにしている(持ち物・くつなど)
- ・絵本の中でもジェンダーの役割、決まっている
- ・明石市は若い世代の流入が多いことから、学校での啓発が効果的ではないか
- ・小さい頃からの教育、研修

政治

- ・明石は子育て支援がすごく手厚いので、これとジェンダーギャップ解消の取組が組み合わせられればさらに良いのではないかと
- ・明石・豊岡など兵庫県から日本のジェンダーギャップ解消を進め、ジェンダーギャップ指数125位を改善したい
- ・クオータ制の導入

イベント ファシリテーター



あかし女性応援ねっと
事務局長 柏木 登起

質疑応答

学校の子どもたちへ浸透させていく取組みは？
また、豊岡市の取組みに企業の参加が増えていったが、どのように進められたのか？

ジェンダーギャップ解消戦略の中にもあるように、子どもたちが自分の言葉でジェンダーギャップ解消の必要性を語れることを目的とした取組みに力を入れている。

現在はクラウドファンディングで絵本を作成中。子どもも保育士も一緒に学ぶ仕組みを。また、教員の管理職における女性比率の向上に向けて教育

長と策を進めている。

企業との取組みは、協力的な経営者に声をかけて進めていった。ロールモデルとなる企業や人をお手本にしながら、ジェンダーギャップ解消に取り組んでいる企業をパッチワークモデルとして設定し紹介するなど、一人ずつという感じで進めている。

豊岡市に若い女性が帰ってこないことは、結婚しない男性も増えている構造になっているのか？人口減少の対策を伺いたい。

結婚支援については、月に1回程度、市内で縁結びのボランティアさんをお願いして、マッチングイベントを行っている。

若い女性が故郷に戻ってくる取組みや支援を進めることにより、女性が住みやすいまちへ。やはりその支援は必要であると考えている。

地域活動は根強くジェンダーの考えが残っており、男性も女性もそれを当たり前と受入れている。

どのように改善すべきなのか方法がわからないので、豊岡市では具体的にどうされているのかを教えてください。

地域は概念が強いところもあるので、まずはカタカナ言葉をやめる、とか、昭和の歌謡曲にはジェンダーの歌詞が多いので、平成・令和との違いを紹介したり、川柳で啓発するなど、まずは気付いていただき敷居をさげるようにしている。

閉会あいさつ



あかし女性応援ねっと
副代表 小河 作江

講師の上田様、貴重な体験談を踏まえたとご講演、有難うございました。

本日のイベントから3点について私の考えをお話させていただきます。

女性の就業率アップの理由は、働き方改革・テレワーク活用、そして育児休業取得・時短勤務等、仕事と育児の両立支援が背景にあると思われます。

「気づき」の積み重ねが如何に大切か、気づき→行動→変化→大きい成果を上げることに繋がると思います。「ジェンダー平等推進」の取組みでは、国・地域・個人すべてのレベルでの意識改革・行動化が成果を上げる早道であると考えます。

交流会では活発な意見交換ができたのではないのでしょうか。

本日のイベントの中から、「気づき」を増やすヒントになれば幸いです。

その他ご意見・アンケート結果

まずは、自分ごととして気づききっかけが大切だと思いました。

「あかし女性応援ねっと」というネーミングについて、「女性」ではなく「ジェンダー平等」などで検討してみは？

ふだん話す機会がない方の活動や考え方をお伺いできる貴重な機会でした

